

「切断」の哲学

建築文化週間 建築夜楽校 2016

1990年代は**グローバリズム**が加速した時代であった。ベルリンの壁崩壊やEUの発足は、政治的な境界の消失の象徴的な出来事であったが、あらゆるものの境界が消失し、流動的に接続される世界像が形成されたといえる。

同時代に開催された**Any会議**では、建築と哲学を架橋するさまざまな議論が展開された。この中の一部の動きとして、**デジタル・テクノロジー**を駆使する若手の建築家たちを中心として、ドゥルーズの哲学を**接続の思想**として解釈し、そのような思想や当時の世界像に対応した建築のあり方を追求するものも現れた。彼らは**接続性**や**関係性**といったキーワードをもとに、独自の建築思想を生み出していったが、これは現在のコンピューショナル・デザインの礎になっている。

現在でも建築を考える上で、**接続性**や**関係性**は重要なキーワードである。一方、グローバリズムが示した境界を越えて自由にモノが流動し接続される世界像は、**さまざまな側面で揺らぎは始めている**（中東問題、EUの分裂危機...etc）。哲学においても、「接続性」や「関係性」の思想を批判する**切断**の思想や**オブジェクト**の思想など、新たな潮流が生まれてきている。また、「Any会議」以降、隔たりが生まれていた建築と哲学の距離は、再び縮まろうとしている。

このような状況をふまえ、本イベントでは、**切断**の哲学が建築に示唆するもの、そして**これからの建築のあり方**について、幅広い視点から議論する。

2016年10月7日(金)

18:00 ~ 20:30 (開場 17:30)

会場：建築会館ホール (東京都港区芝 5-26-20)

定員：300名 (当日先着順、予約不要、参加無料)

主催：日本建築学会

千葉 雅也 (哲学者、立命館大学 准教授)

平田 晃久 (建築家、京都大学 准教授)

門脇 耕三 (建築家、明治大学 専任講師)

コメンテーター

松田 達
(建築家、武蔵野大学 専任講師)

モデレーター

平野 利樹
(東京大学大学院 隈研吾研究室)

と、
こ
れ
か
ら
の
建
築